資料１

令和８年度 第１回 北海道立近代美術館協議会



HOKKAIDO MUSEUM OF MODERN ART
北海道立近代美術館

展覧会等の実施状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

近美コレクション展示室A

3月29日(土)～7月6日(日)　[83日間]
[1階]
リーヴル・ダルティスト
－芸術になった本 ルオー、ダヴィッド、マティス、シャガール

ウィズ・キッズ '25　めでたいな！幸せねがう日本の絵

[2階]
巴里のかほり
アール・デコのガラス
新収蔵品展

観覧者数	一日当たり観覧者数
13,871	167

7月19日(土)～11月24日(月)[106日間]
[1階]
1945-2025 美術は何を記憶しているか
ウィズ・キッズ '25　赤・青・白 杉山留美子さんの部屋

[2階]
透明なガラス-スウェーデンのリリシズム
アートギャラリー北海道 手のひらの宇宙-洞爺湖芸術館コレクション展

[ロビー・前庭]
この１点を見てほしい。
本郷新《嵐の中の母子像》

観覧者数	一日当たり観覧者数
21,425	202

12月13日(土)～4月12日(日)[84日間]
【１階】
おはなし美術

【２階】
カラー・オブ・グラス
この１点を見てほしい。 池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げるVaranasi》

観覧者数	一日当たり観覧者数
10,378	123

3月29日(土)～4月 12日（日）[2階] 青木美歌《未生命の遊植》

普及事業・関連事業

5月17日(土)、6月14日(土)「絵巻物にふれてみよう！」

8月30日(土) トーク・イベント（青木美歌）

9月～11月（6回）「キッズ・ツアー」

7月～11月（9回）「おしゃべりディ」

1月28日(水)、2月8日(日)「ふれてたのしむ絵巻物」

通年　学芸員によるミュージアム・トーク、ボランティア解説部によるギャラリー・ツアー

特別展 展示室B

4月25日(金)～6月15日(日)[44日間]
[貸館] 道新
浮世絵スーパークリエイター
歌川国芳展

観覧者数	一日当たり観覧者数
37,512	852

7月 19日(土)～ 9月7日(日)　[44日]
[実行委員会] TVh
金閣・銀閣　相国寺展
若冲・応挙・芦雪
-禅文化の名宝と美

観覧者数	一日当たり観覧者数
50,394	1,145

10月1日(水)～11月24日(月)[49日間]
[貸館] 道新
トーベとムーミン展
～とっておきのものを探しに～

観覧者数	一日当たり観覧者数
49,096	1,001

12月13日(土)～ 2月15日(日)[51日間]
[道単特別展]
イワタルリ展 息づくガラス

観覧者数	一日当たり観覧者数
5,605	109

普及事業
関連事業

4月25日（金）講演会

5月17日（土）講演会

7月19日（土）椅子座禅会

8月13日（土）講演会

8～9月（4回）見どころ解説

12月13日（土）対談

1月（4回）見どころ解説

その他普及活動

8月3日(日) 夏休みこどもワークショップ

8月～12月（9回）オンラインアート教室
6月～9月 インターンシップ
8月 博物館実習

1月10、17日(土) コンサート

1月29日（木）3月19日(木)配信 リモート・ミュージアム

1　令和７年度事業実施報告及び美術館評価　（近代美術館）

A　優れた作品の収集と適切な保管　評価　B

○優れたコレクションの形成

・「イワタルリ展」での調査研究を踏まえて同作家の作品1点を購入、現代日本の「ガラス工芸」分野の充実を図ることができた。

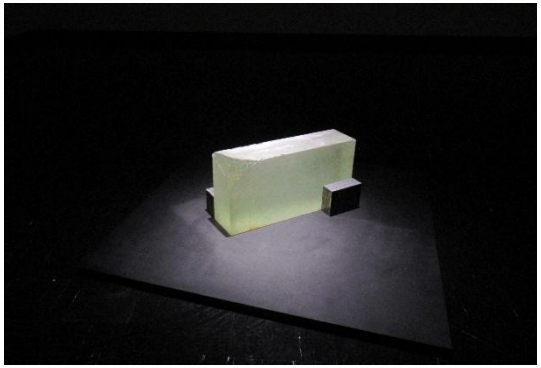
○所蔵作品の適切な保管

・前年度よりも年間の捕虫数が減少した。

・令和7年度までの新収蔵作品を含めデータの登録が完了した。

○コレクションの効果的な活用

・「新収蔵品展」のほか、「この1点を見てほしい。」を2回開催した。



新収蔵品　イワタルリ
《No.220402》2022年

【成果】コレクションの活用、購入による主体的な収集活動を行った。IPM（総合的有害生物管理）に基づく取組を継続し、適切な保管環境の保持を実現した。
【課題】価格高騰のため、「エコール・ド・パリ」の作品収集が叶わない状況にある。二次資料のアーカイブ化について、業務量や期間を踏まえて検討し促進すべきである。
【今後の対応方法】収集計画に基づき、広く情報収集を行い、コレクションの充実を目指す。適切な保存環境のもとで所蔵作品を管理するとともに、必要に応じて修復を行う。
調査研究を深めることでコレクションの魅力を掘り起こし、展覧会や事業等において紹介する。

1　令和７年度事業実施報告及び美術館評価　（近代美術館）

B　多彩で特色ある展示活動の充実　評価　C

○多様なニーズに応える展覧会の開催

・「ウィズ・キッズ」展では大人と子どもを対象としたワークショップを５回開催した。

・「金閣・銀閣　相国寺展」、「イワタルリ展」のほか、貸館で「歌川国芳展」、「トーベとムーミン展」を加え、多彩な４つの特別展を開催した。

○観覧者拡充のための工夫

・「おはなし美術」のコーナー解説や「イワタルリ展」の多言語での情報発信を行った。

・近美コレクションでは全ての展示においてワークシートを展示室内に配置した。

○館外における鑑賞機会の提供

・道内外7つの美術館での展覧会に、合計83点の作品を貸出した。

【成果】特別展「金閣・銀閣　相国寺展」「歌川国芳展」「トーベとムーミン展」、コレクション展「1945-2025　美術は何を記憶しているか」を中心に、外国人観光客を含め、多くの観覧者を迎えることができた。
【課題】外国人の来館増加により、館内表示における和英併記の充実の要望が寄せられた。特別展における児童生徒の割合が低下したことから、児童生徒への広報、周知方法を工夫する必要がある。
【今後の対応方法】社会包摂を意識し、多様な鑑賞者が楽しめる展覧会企画を探る。「ウィズ・キッズ」展を継続し、児童生徒の来館増加を図り、SNS等を活用した広報を行う。

1　令和７年度事業実施報告及び美術館評価　（近代美術館）

c　学習の場と情報提供の充実　評価　B

○教育普及活動の充実

・「ポケット学芸員」の作品ガイド・コンテンツ９本を新たに公開した。特に当館前庭と知事公館庭園の野外彫刻は13本全てのコンテンツを完成、札幌東陵高校を新たな連携校とし、同校放送局と協力してナレーションを収録した。

・ワークショップは子どものほか大人を対象とした回を、またキッズ・ツアーでは未就学児と小学生それぞれの回を設け、幅広い年齢層の来館者に応じた対応を心がけた。

○情報提供の充実

・SNS（フェイスブック、X）で計288回の投稿を行った。

・「北海道リモート・ミュージアム」の動画を新たに２本制作、公開した。

【成果】外部研究者の講演会やワークショップ、学芸員の解説など多彩な教育普及事業を実施、なかでも「おしゃべりデイ」は多様な年齢層に好評だった。紙版の年間案内配架を再開、紙面にＨＰの利便性に関する情報を掲載し、情報提供のあり方を再考した。

【課題】教育普及プログラムの実施件数を増やしたにもかかわらず、参加人数が減少したことから、周知方法の検討が必要である。「北海道リモート・ミュージアム」は、これまでの撮影や編集の工夫、映像の質を維持しつつ、意義のあるコンテンツ作成に努める必要がある。

【今後の対応方法】教育普及事業毎の対象や趣旨をより明確にし、周知を図るよう努める。「北海道リモート・ミュージアム」は、学芸員が撮影や編集に関わる労力を減らし、趣旨や内容の検討により注力できるよう、技術的な作業の軽減に努める。

1　令和７年度事業実施報告及び美術館評価　（近代美術館）

D　活動の基礎となる調査・研究の推進　評価：B

○調査・研究の推進

・「イワタルリ」展では、調査研究を進めた結果、ガラス作品1点の収蔵に結実した。また、次年度以降の特別展に関する調査研究を進めた。

【成果】各学芸員が調査・研究を進め、展覧会企画や作品収集に結実。解説活動や図録、紀要等においてその成果を発表した。
【課題】調査・研究の成果について、次年度以降の事業に体系的に反映させていくとともに、発信方法や媒体について、効果的なあり方を検討する必要がある。
【今後の対応方向】引き続き、展覧会やコレクションに関する調査・研究を進めるとともに、その成果を発表する機会の拡充を図る。

E　多様な主体との連携・協力による地域の活力向上　評価：A

○多様な機関との連携・協力

・「アートギャラリー北海道」連携事業として洞爺湖芸術館のコレクション展を開催した。
・他の美術団体などに職員を派遣し、地域の芸術文化振興及び地域作家の顕彰に寄与した。

○学校等の教育機関との連携・支援

・「オンラインアート教室」では、計８つのプログラムを用意し、授業計10件を実施した。

【成果】多様な機関との連携に取り組み、相互の協力関係維持に努めた。「オンラインアート教室」では事業実施の効率化を図り、授業内容のブラッシュアップができた。
【課題】文化関連にとどまらない多様な領域の主体との連携・協力に取り組む必要がある。これまで利用がなかった学校について、教育活動で美術館利用機会を模索する必要がある。
【今後の対応方向】各活動において、高い効果が見込める連携・協力先を日常的に探すよう努める。学校教育における美術館の活用について、様々な情報発信を通した環境整備や、個別相対応等を図る。

F　安全で快適な滞在環境の提供　評価：A

○施設の適切な維持管理

・当館職員の日常的な点検や業者による保守点検のほか、道教委技術職員による年２回の定期点検により、施設設備の不具合や故障を早期に発見し、迅速かつ適切な修繕に努めるなどして、館内外の環境改善を図った。
・業者と連携し、落下の危険がある樹木の枝を伐採したほか、懸案となっていた前庭南側の樹木を剪定するなどして、植栽の適切な維持・管理に努めた。

○施設の快適性の向上

・来館者アンケートで寄せられた意見に基づき鑑賞環境の改善を図るほか、当館の対応をまとめて館内に掲示するとともに、ホームページにも掲載した。
・キャッシュレスサービスの運用拡大に向け、令和７年度中に特別展共催事業者と協議を行い、令和８年度実施の特別展において実施することとなった。

【成果】施設の安全確保に向け、日常点検等により故障箇所等の早期発見に努め、修繕等を速やかに実施するほか、来館者アンケートの内容を踏まえて鑑賞環境の改善を図るなどして、概ね適切に維持・管理を行った。
【課題】老朽化が進む施設設備の適切な維持管理のため、引き続き点検の充実等により、不具合や故障の早期発見・早期対応に努めるとともに、来館者アンケートの回収率向上に努め、満足度向上に向けて館内外の環境改善を図る必要がある。

① 展覧会等の実施状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

近美コレクション展示室A

～4月12日（日）
※R7年度Ⅲ期を継続

4月25日(土)～8月30日(日)［110日間］
［1階］
描かれた女性たち－エコール・ド・パリの時代を中心に

［2階］
小森忍と北海道
この1点を見てほしい。松島巌《紡がれた器》
ウィズ・キッズ'26 まねしてはっけん！アートのポーズ

観覧者数	一日当たり観覧者数

9月12日(土)～12月20日(日)［87日間］
［1階］
わたしのつくりかた
アートギャラリー北海道福井爽人の旅
－彼方の眺め市立小樽美術館コレクション展

［2階］
国立美術館コレクション・プラスガラス夢のはじまり

観覧者数	一日当たり観覧者数

1月９日(土)～4月11日(日)［70日間］（予定）
【１階】
札幌国際芸術際2027連携 雪々と

【２階】
エミール・ガレ生き物たちの饗宴
― 植物が語るガレの自然観
ウィズ・キッズ'26 これって、どんな絵？

観覧者数	一日当たり観覧者数

普及事業・関連事業

5月～8月（6回）「キッズ・ツアー」、「おしゃべりデイ」

9月12日(土) 講演会

10月3日(土) アーティストトーク

11月1日(日) 演劇公演＋ワークショップ

1～3月「キッズ・ツアー」、「おしゃべりデイ」

9月～12月 自由参加創作コーナー

通年 学芸員によるミュージアム・トーク、ボランティア解説部によるギャラリー・ツアー

特別展展示室B

4月25日(土)～６月21日(日)
［50日間］
［実行委員会］TVh
ポケモン×工芸展
－美とわざの大発見

観覧者数	一日当たり観覧者数
73,428	1,447

7月17日(金)
～8月30日(日)［39日間］
［貸館］道新
魔法の美術館

観覧者数	一日当たり観覧者数

9月12日(土)
～11月8日(日)［51日間］
［貸館］道新
MINIATURE LIFE展２
田中達也見立ての世界

観覧者数	一日当たり観覧者数

【貸館】

11／17～23 道展	11／28～12／5 全道展	12／10～17 新道展

1月９日(土)～4月11日(日)（予定）［70日間］
［道単特別展］
函館美術館コレクション
文字とアート－ポップ・アートから書まで

観覧者数	一日当たり観覧者数

普及事業
関連事業

4～6月（3回）記念撮影会

5月31日（土）アーティストトーク

7月25日（土）ワークショップ

8月1日(土) トーク・イベント

1～３月 見どころ解説

その他普及活動

8月2日(日) 夏休みこどもワークショップ

9月 博物館実習
10月～12月（5回）オンラインアート教室
10月 インターンシップ

1～3月配信
リモート・ミュージアム

2　令和８年度運営計画　（近代美術館）

② 令和８年度の主な取組（新たな取組を中心に）

A　優れた作品の収集と適切な保管

○　コレクションの充実度を考慮した、計画的かつ現実的な美術品取得基金の活用
○　修復が必要な作品のリストに基づく計画的な作品修復
○　アーカイヴ（記録・資料保管システム）のあり方についての研究

B　多彩で特色ある展示活動の充実

※　展覧会の内容については別途説明

C　学習の場と情報提供の充実

○社会包摂の観点から障がいや言語に配慮したわかりやすい内容の音声ガイドのコンテンツの作成
○展示室での自由な会話を伴う鑑賞を促す「おしゃべりデイ」の実施

2　令和８年度運営計画　（近代美術館）

D　活動の基礎となる調査・研究の推進

○　リニューアル基本構想の「目指す姿」の実現に向けての、リニューアル後の活動や必要な機能等の検討

○　学芸員の資質向上を図るための研修への参加や、他の美術館等との積極的な交流

E　多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

○　道内の多数の福祉施設等の協力を仰ぎ、障がいのある作家の作品と、当館コレクションをあわせて展示する「わたしのつくりかた」を実施

○　「アートギャラリー北海道（AGH）」事業として、市立小樽美術館のコレクション展「福井爽人」の実施

○　札幌国際芸術祭2027と連携して雪をテーマとした展覧会を、国立アートセンターと連携し京都国立近代美術館の所蔵品と当館コレクションをあわせて展覧会を実施

F　安全で快適な滞在環境の提供

○　施設等の点検結果を踏まえた不具合や故障の早期発見と迅速な対応

○　来館者アンケートを踏まえた館内外の環境改善

○　キャッシュレスサービスの運用拡大

③ 令和８年度 道立近代美術館事業費予算

単位：千円

歳入予算					歳出予算				
区　分	令和７年度予算額（a）	**令和８年度予算額（b）**	比　較（b-a）	摘　要	区　分	令和７年度予算額（a）	**令和８年度予算額（b）**	比　較（b-a）	摘　要
常設展観覧料収入	6,968	7,314	346		常設展事業費	15,995	17,825	1,830	常設展（近美コレクション）に関する経費
特別展（道単）観覧料収入	7,891	8,283	392		特別展（道単）事業費	10,802	14,328	3,526	道単独開催の特別展に関する経費
実行委員会展収入	0	0	0	（大規模展の例）共催展収入20,000	特別展（実行委員会）負担金	3,000	0	▲ 3,000	実行委員会主催の特別展に関する経費
実行委員会展展示室料	0	0	0		教育普及・調査研究資料収集費	821	821	0	普及活動及び資料収集等に関する経費
貸館料収入	11,758	14,376	2,618	展示室、講堂等利用	親子ふれあい芸術体験事業	205	205	0	親子で楽しめる体験事業に関する経費
芸術文化振興基金等収入	3,000	3,000	0		移動美術館	0	0	0	令和５年度から事業休止
キャンパスパートナーシップ	0	0	0		収蔵作品特別緊急修復事業	5,343	6,072	729	作品修復に関する経費
一般財源	9,633	9,362	▲ 271		その他	3,084	3,084	0	学校連携や収蔵作品選定評議会に関する経費
計	39,250	42,335	3,085		計	39,250	42,335	3,085	

資料２

令和８年度 第１回 北海道立近代美術館協議会

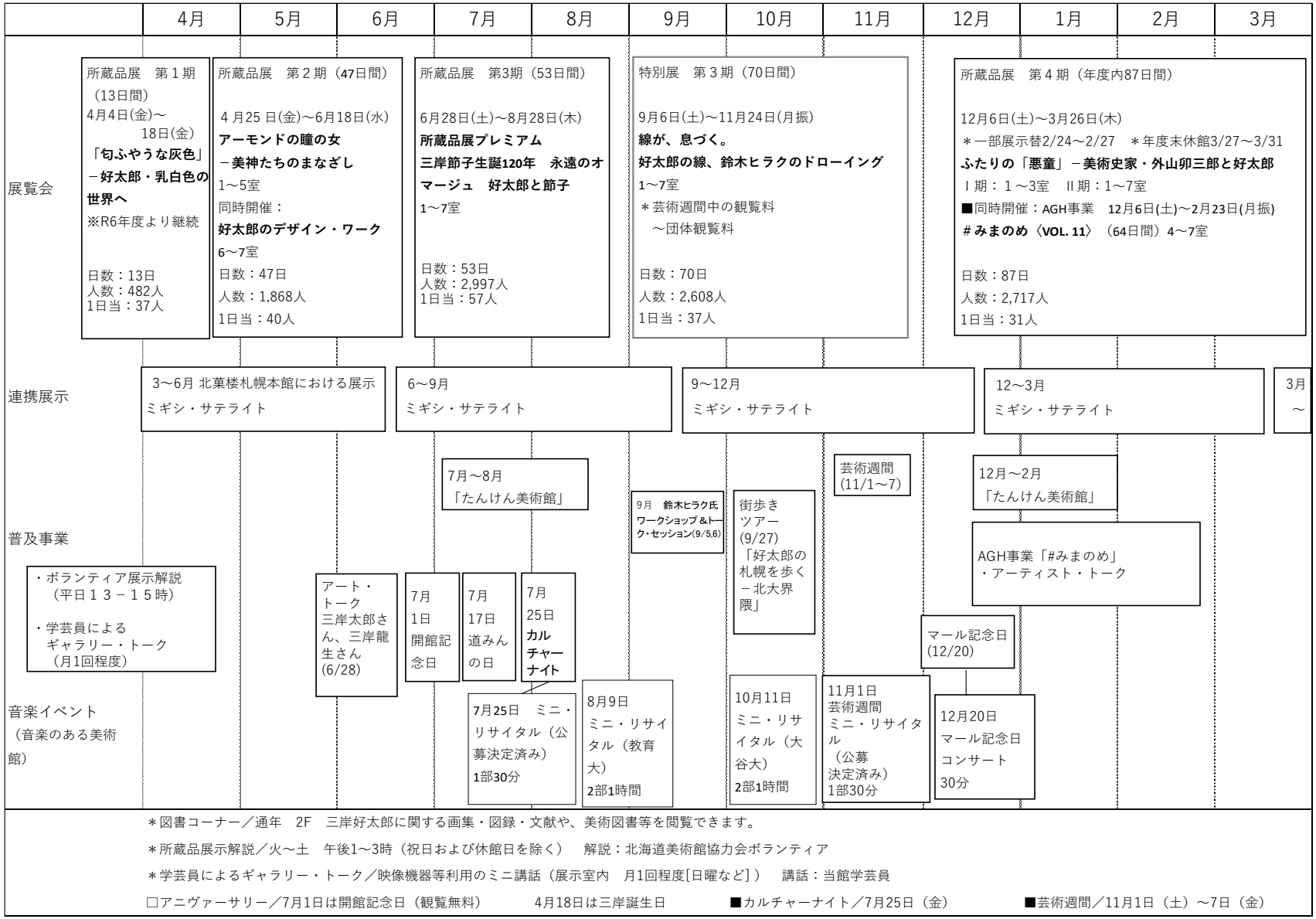


mima
北海道立三岸好太郎美術館

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

資料２－１

展覧会等の実施状況



＊図書コーナー／通年　2F　三岸好太郎に関する画集・図録・文献や、美術図書等を閲覧できます。

＊所蔵品展示解説／火～土　午後1～3時（祝日および休館日を除く）　解説：北海道美術館協力会ボランティア

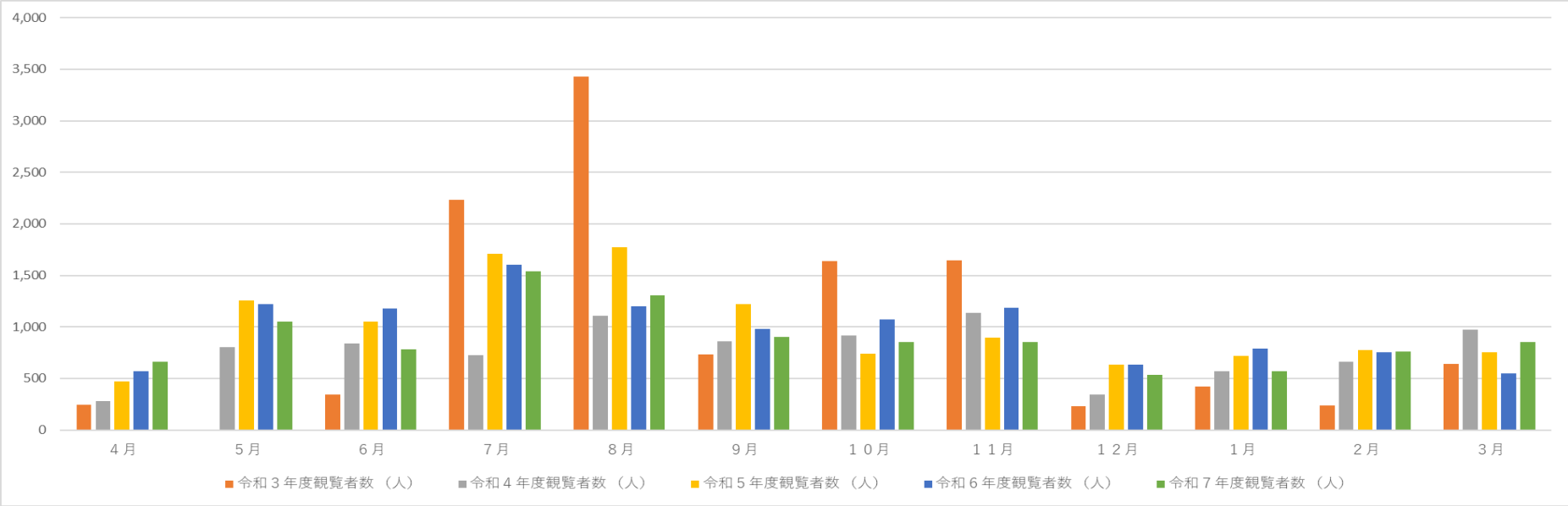
＊学芸員によるギャラリー・トーク／映像機器等利用のミニ講話（展示室内　月1回程度[日曜など]）　講話：当館学芸員

□アニヴァーサリー／7月1日は開館記念日（観覧無料）　4月18日は三岸誕生日　■カルチャーナイト／7月25日（金）　■芸術週間／11月1日（土）～7日（金）

所蔵品展 観覧者数	R7	8,064	人	
	R6	9,264	人	
	R5	10,109	人	
特別展 観覧者数	R7	2,608	人	
	R6	2,464	人	
	R5	1,892	人	
所蔵品展 一日当たり	R7	40	人/日	
	R6	42	人/日	
	R5	48	人/日	
特別展 一日当たり	R7	37	人/日	
	R6	47	人/日	
	R5	36	人/日	

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

観覧者数の推移



項目	単位	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
令和３年度観覧者数	（人）	247	0	340	2,233	3,427	732	1,637	1,647	233	424	237	643	11,800
令和４年度観覧者数	（人）	282	805	840	725	1,109	861	917	1,139	342	569	660	972	9,221
令和５年度観覧者数	（人）	470	1,256	1,054	1,712	1,772	1,221	739	896	634	719	774	754	12,001
令和６年度観覧者数	（人）	572	1,220	1,176	1,601	1,201	977	1,071	1,189	632	788	754	547	11,728
令和７年度観覧者数	（人）	665	1,048	784	1,541	1,309	902	855	851	533	567	761	856	10,672

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

A 優れた作品の収集と適切な保管　　評価 B

優れたコレクションの形成

・三岸好太郎最晩年の主要作品を市場水準よりも安価な価格で購入し、コレクションの充実を図ることができた。

所蔵作品の適切な保管

・UVカット低反射アクリルの額装（2点）、中性紙ボードでマット装(4点)により、作品保護を推進できた。
・貴重な油彩資料について修復を行うことができた。

コレクションの効果的な活用

・調査研究の推進や新しい視点からの好太郎芸術の紹介により、来館者の高い満足度を得ることができた。

【成果】基金による作品の購入や、作品修復により、コレクションのさらなる充実と適切な保管環境の維持に努めることができた。
【課題】収蔵作品の増加により、さらなる作品修復･保護の措置が必要。
【今後の対応】
取組を継続するとともに、外部資金の確保に引き続き取り組む。

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

B 多彩で特色ある展示活動の充実　　評価 B

多様なニーズに応える展覧会の開催

・４期の所蔵品展において、新鮮な切り口によりコレクションの新たな魅力を紹介することができた。

・特別展において新たな試みとして、好太郎の線描と古代壁画、現代美術とのコラボレーションによる展示を実施し、高い評価を得た。

観覧者拡充のための工夫

・所蔵品展では三岸節子による身近な証言を紹介する展示手法をとったり、特別展では古代壁画や現在美術と対比させたり、作家に展示室で直接作品を制作いただいたり、高校生とワークショップを行うなど、工夫を凝らして展覧会の内容の充実を図った。

・「みまのめ」展では、北海道の若手作家のフレッシュな表現を紹介し観覧者増を図った。

館外における鑑賞機会の提供

ミギシ・サテライト(北菓楼札幌本館)において4点の作品を順次展示し認知度の向上を図った。

【成果】来館者の満足度において引き続き高い評価を得られたとともに、来館者数も目標値に近い数値となった。

【課題】児童生徒の割合が低く、特に高校生は全体の2%程度にとどまる。

【今後の対応】
引き続き展覧会や各事業の充実を図るとともに、ＳＮＳを活用した広報や大学等と連携した取組などにより、若い世代の観覧者増を図る。

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

C 学習の場と情報提供の充実　　評価 B

教育普及事業の充実

・例年行っている教育普及事業や音楽イベントのほか、三岸家ご子孫によるアート・トークや特別展におけるワークショップ、トークセッションなどのイベントなどにより、目標より多くの事業を実施することができ、多くの参加者から企画について高評価を得ることができた。

情報提供の充実

・図書コーナーに靴を脱いでくつろげるスペースを設けることにより、親子などの利用促進を図った。
・複数のＳＮＳを活用し、計画的かつ積極的な投稿を行うことにより、タイムリーに展覧会やイベント情報等を発信できたとともに、ＳＮＳのフォロワー感謝企画により、フォロワー数の増加を図った。

【成果】教育普及事業の実施数は目標を上回った。また、SNSの活用により、閲覧者やフォロワー数が増加した。
【課題】ＨＰの内容の充実及び図書･資料コーナーの利用者の減少。
【今後の対応】
引き続き教育普及事業を充実させ、地域の人々の学習の場を提供する。
図書・資料コーナーは、設置場所や配架内容等を工夫することで利用促進を図る。
ＨＰとＳＮＳの双方を活用した積極的な情報発信により来館を促す。

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

D 活動の基礎となる調査・研究の推進　　評価 B

調査･研究の充実度

・所蔵品展及び特別展に関する調査・研究を進め、新しい知見を展示を通して明らかにすることにより、展覧会の内容の充実を図った。
・美術古書専門店の目録に貴重な好太郎作品が掲載されているとの情報を得て調査を行ない、作品収集に結びつけることができた。
・東京文化財研究所紀要『美術研究』448号（令和7年度末発行）にデータベースに関する「研究ノート」を寄稿し、調査研究の蓄積をひろく社会に還元する機会を得た。

【成果】資料調査等による研究成果を展覧会に反映させ、展示内容並びに美術情報の提供について充実を図ることができた。また、地道な情報収集活動の積み重ねにより、いち早く市場における作品情報を把握し、作品収集に結びつけることができた。
【課題】学芸員の研修は自己研鑽に依るところが大きい。
【今後の対応】
引き続き調査・研究、研修の機会の確保及び充実を図る。

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

E 多様な主体との連携･協力による地域の活力向上　　評価 A

多様な機関との連携･協力

・これまで連携してきた団体や近隣の施設・機関による展覧会、教育普及事業の充実のみならず、新たな施設等と連携・協力関係を築くことができた。
・余市町教委との共催や関係団体と連携により、特別展及び教育普及事業の充実を図ることができた。

学校等の教育機関との連携･支援

・出前授業で各学校の授業内容に応じて学芸員が作品について詳しく説明するなど連携を図った。
・オンラインを活用した鑑賞授業の実施により美術作品に触れる機会の少ない子どもたちに鑑賞機会を提供することができた。
・高校生を対象としたワークショップの実施により、高校生の鑑賞機会の充実を図った。

【成果】関係機関との連携･協力を強化し、サービス向上を図ることができたほか、出前授業やオンラインアート教室、ワークショップの実施などにより、子どもたちの鑑賞機会の提供に寄与できた。
【課題】近隣の学校や高文連加盟校などに利用を案内しているが、特定の学校以外、新規利用増になかなか結びつかない。
【今後の対応】
引き続き地域の様々な団体と連携した取組を充実させるほか、オンライン活用や出前講座など鑑賞事業の充実を図るとともに、あらゆる機会を捉えて展覧会情報など美術館活動のPRに努める。

1　令和７年度事業実施報告および美術館評価（三岸好太郎美術館）

F 安全で快適な滞在環境の提供　　評価 B

施設の適切な維持管理

・施設の不具合に対し、関係部署と連携し適切に対応を行った。特にR7は、地下１階女子トイレのドアに不具合が生じたが、館職員、設備運転保守管理業者や工事業者と連携を図り、適切に対応した。

・大雪の影響による屋根からの落雪事故防止のために、正面玄関側及び職員通用口側の屋根の雪下ろし及び除雪業務に迅速に対応し、来館者及び職員の安全を図った。

施設の快適性の向上

・受付・監視等委託業者による丁寧な接客対応を実施した。

・館職員、警備、受付・監視、設備運転保守管理の各委託業者、カフェ・売店事業者がそれぞれ連携を図り、良好な滞在空間の維持・提供に努めた。

【成果】鑑賞環境やショップ、スタッフの接客等について、引き続き来館者から高い満足度を得ることができた。

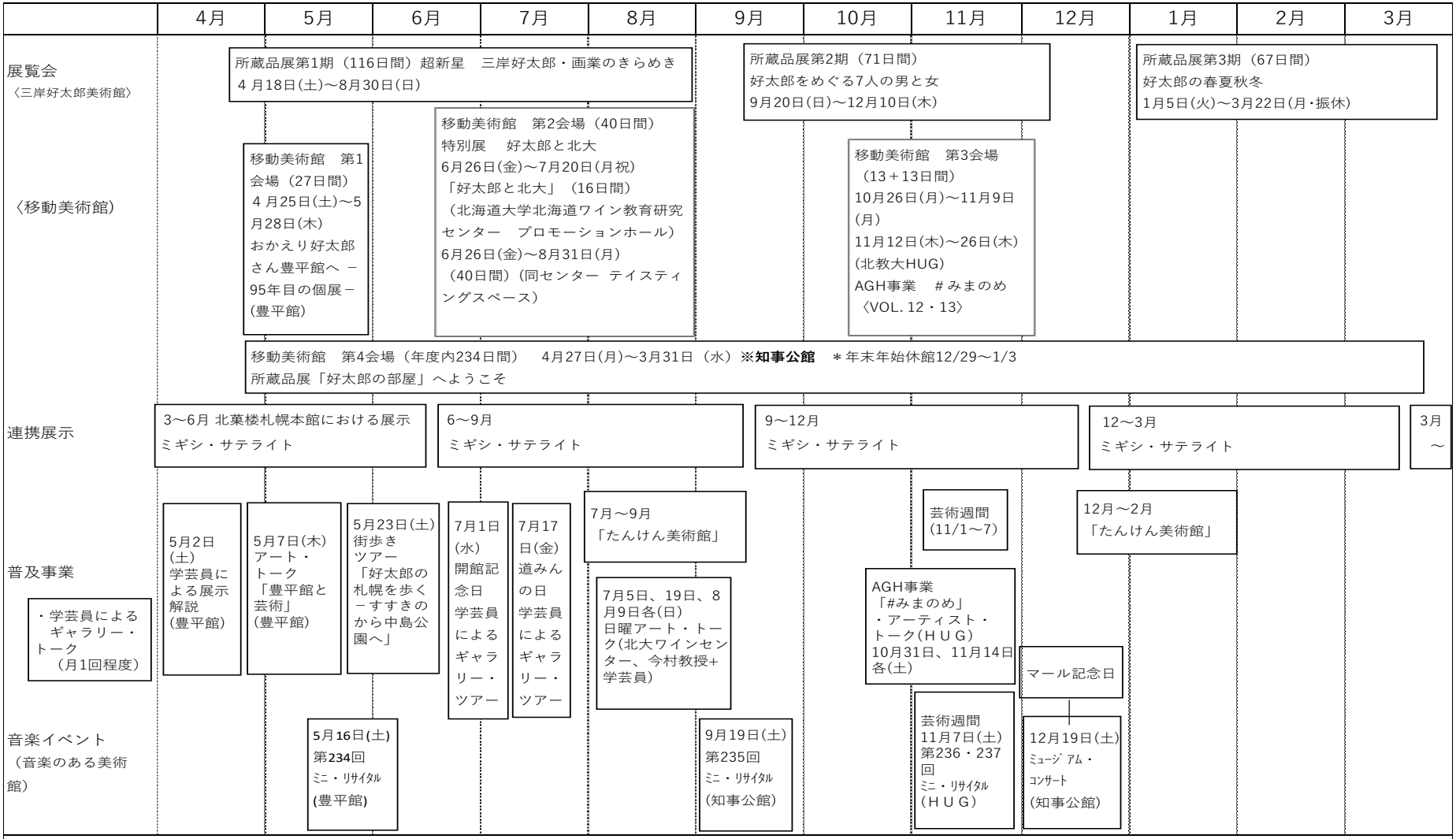
【課題】施設の老朽化による突発的な不具合への対応や、それに関する施設担当と学芸員間での迅速な情報共有、展示室の壁等の劣化への対応が必要。
さらに、電気設備の大規模修繕が延期されたことに伴う危機管理が重要となる。

【今後の対応】
Ｒ８に長寿命化診断を予定。大規模改修に関し所管課・関係課と連携を図る。
また、施設の不具合に対しては、経年劣化の期間が長引いていることを踏まえ、引き続き迅速かつ適切に対応するとともに、委託業者や関係部署等と連携を図りながら良好な滞在空間の提供に努める。

2　令和８年度運営計画（三岸好太郎美術館）

資料２－２

令和８年度事業計画



＊図書コーナー／通年　2F　三岸好太郎に関する画集・図録・文献や、美術図書等を閲覧できます。

＊所蔵品展示解説／火～土　午後1～3時（祝日および休館日を除く）　解説：北海道美術館協力会ボランティア

＊学芸員によるギャラリー・トーク／映像機器等利用のミニ講話（展示室内　月1回程度[日曜など]）　講話：当館学芸員

□アニヴァーサリー／7月1日は開館記念日（観覧無料）　　4月18日は三岸誕生日

2　令和８年度運営計画（三岸好太郎美術館）

令和８年度の主な取組

A　優れた作品の収集と適切な保管

○　三岸好太郎の作品や資料の収集
○　展示・保存環境の保持及び必要に応じた修復、保管状況の改善
○　事業の充実や作品修復に向けた外部資金の確保

B　多彩で特色ある展示活動の充実

※展覧会の内容については別途事業計画で説明

C　学習の場と情報提供の充実

○　学芸員によるトークのほか、ボランティアと連携した所蔵品展展示解説の実施
○　「＃みまのめ」展における出品作家によるトークの実施
○　夏休み・冬休み期間に子ども向けプログラム「たんけん美術館」の実施
○　展覧会テーマや好太郎作品に関連した事業（講演、街歩き、展示室での音楽会等）の積極的な実施とその充実

※　教育普及事業の多くを移動美術館の会場で実施

2　令和８年度運営計画（三岸好太郎美術館）

D　活動の基礎となる調査・研究の推進

○　令和８年度以降の展覧会関連テーマや他館所蔵作品、北海道の若い芸術家たちの活動等についての調査・研究
○　三岸好太郎の研究・鑑賞・学習等のセンター的・アーカイブ的な機能の充実と、一般利用者・研究者等が行う調査・研究の支援･協力
○　成果を展覧会や教育普及・情報提供等様々な活動を通して広く社会に還元

E　多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

○　北海道美術館協力会や美術館ボランティア活動への協力
○　地域と関わりを持つ企画を推進し、地域の人々の関心を高める
○　近代美術館と連携した「オンラインアート教室」「指導者研修」「博物館実習」「ポケット学芸員」等への取組
○　児童生徒の自主研修や体験学習等への対応、出前講座などの鑑賞事業の充実

F　安全で快適な滞在空間の提供

○　施設設備の点検、不具合等への迅速かつ適切な対応
○　好太郎のアトリエのイメージを取り入れた建築設計の特色を活かし、観覧者に良好な滞在環境を提供する
○　来館者への接客内容の向上、館内設備等の安全性と利用の快適さの保持

2　令和８年度運営計画（三岸好太郎美術館）

令和８年度　三岸好太郎美術館事業予算状況

（千円）

歳入予算				
区分	令和7年度 (a)	令和8年度 (b)	比較 (b-a)	摘要
観覧料（常設展・特別展）	2,761	0	▲2,761	
その他	1,770	5,914	4,144	
一般財源	3,749	6,029	2,280	
計	8,280	11,943	3,663	

歳出予算					
区分		令和7年度 (a)	令和8年度 (b)	比較 (b-a)	摘要
展覧会	常設展	3,477	10,321	3,663	R8は館内所蔵品展 移動美術館（所蔵品展・特別展）
	特別展	3,181			
教育普及		422	422	0	親子ふれあい含む
調査研究		50	50	0	
維持運営費		1,150	1,150	0	
計		8,280	11,943	3,663	

資料３

令和８年度第１回 北海道立近代美術館協議会

近代美術館リニューアルに向けた検討状況について

「これからの北海道立近代美術館検討会議」開催状況

R5.7 北海道立近代美術館リニューアル基本構想（中間報告）

令和６年度 （12回～14回）	○「北海道立近代美術館の整備方法等に係る技術的検討調査」結果について ○「知事公館・近代美術館エリアに関する道民等からの意見聴取」の結果について ○北海道立近代美術館リニューアル基本構想（素案）に係るパブリック・コメントの結果概要について ○北海道立近代美術館リニューアル基本構想（案）に向けた素案の修正について　等
令和７年度 （15回～17回）	○北海道立近代美術館リニューアル基本計画の策定に向けた今後の取組について ○北海道立近代美術館リニューアル基本計画の策定に向けて ○道民意見聴取結果について ○リニューアル後の名称について ○休館期間中の取組について　等
第１８回 （R8.4.21）	○リニューアル後の活動について ～「目指す姿」を実現するための活動方針と 道民のウェルビーイング向上について～ ○建築意匠性について
第１９回 （R8.6.9）	○近代美術館・知事公館エリア全体の一体的な活用について ○リニューアル後のイメージについて ～リニューアル後の活動内容と諸室のイメージについて～

R7.3 北海道立近代美術館リニューアル基本構想

「基本計画」の検討

「基本計画」の策定
（残課題の検討）

近代美術館リニューアル基本構想（概要）

技術的検討調査結果

比較の観点		A　改修＋収蔵庫増築	B　現地新築	C　移転新築
延床面積	目安面積 11,480㎡	10,060㎡	11,530㎡	11,510㎡
社会性	目指す姿の実現に向けた必要な機能	確保可能	確保可能	確保可能
	建築物の歴史的・文化的価値の継承	現建物の歴史的価値を継承	現在の意匠は継承されない	現在の意匠は継承されない
休館期間	他県平均　約３年	約２年	約４年	約１年
環境性	樹木伐採規模（工事箇所）	約10本	約50本	約160本
経済性	イニシャルコスト	75～95億円	165～200億円	150～185億円

整備方法の検討に係る考え方

項　　目	検討内容
“目指す姿”の実現	「改修＋増築」は、内部の間仕切り変更、諸室の機能転用、一部機能の増築により必要な面積を確保することが可能で、“目指す姿”の実現に向けた必要な機能の確保が図られるほか、生態系への影響、解体廃棄物の量、既存ストックの活用の観点から、“ミッション”に謳われている「持続可能性」に最大限貢献できる。
美術館活動の継続性	技術的検討調査結果では、リニューアルの工事に伴う休館期間は、「移転新築」が最も短いとされているが、枯らし期間の大幅な短縮により、「改修＋増築」においても１年近く休館期間の短縮が見込める。
環境への影響	技術的検討調査結果では、樹木の伐採本数や廃棄物、CO2の量は、「改修＋増築」が最も少なく、ネイチャーポジティブの考え方に基づく伐採の回復措置も容易で、環境や景観に与える影響が最も少ない。
建築物に関する最近の議論及び現建物の歴史・文化的価値	「価値のある建築物は長く使い続けることが時代の潮流」「改修によってバリューアップが可能」といった文化庁の「建築文化に関する検討会議報告書」や建設事業者からの助言のほか、現在の近代美術館の建物は、道民から親しまれるとともに、文化財への登録の可能性が指摘され、建築物として一定の評価を受けている。

現在の建物を活用し、必要な諸室や十分な規模を確保するため、諸室の転用や増築等のリノベーションを行う。

「目指す姿」を実現するための活動方針と道民のウェルビーイング向上

1．趣旨

リニューアルにおける施設整備ならびにリニューアル後の活動内容を策定するにあたり、ビジョン・ミッション・コンセプト（「目指す姿」）を踏まえた活動方針と、リニューアル後の美術館の様々な活動が道民にもたらす効果を基本計画に記載する。

2．事前の意見交換でいただいた御指摘

委員	御指摘の内容
佐々木亨委員	①活動全体の進め方（戦略）を示すために、基本構想で掲げた「ビジョン」や「ミッション」を実現に導くための道筋（ストーリー）も記載することが重要。 ②受益者を主語に、生み出したい「アウトカム」を言語化すべき。 ③やりたいことの羅列にならないように、施設の整備内容やリニューアル後の活動内容について、優先順位を明確にする必要があり、ソフトとハードの連携が見えるのが望ましい。 ④これまでの美術館活動を踏まえた、肝になるような意識を顕在化させることが重要。
北村清彦委員	コンセプトの横のつながりも議論したい。

3．検討経緯と今後の予定

本項目の検討にあたっては、文化財・博物館課学芸員がビジョン・ミッション・コンセプト（目指す姿）や令和７年度までの近代美術館学芸員との議論をもとに、たたき台を作成。これに対して、近代美術館学芸員に対して知見や経験に基づくコメントを集め、リライトした。

今回の会議のおける委員の方々からの御意見を踏まえ、近代美術館学芸員と改めて討議を行い、基本計画の記載内容としてまとめる予定。

「目指す姿」を実現するための活動方針と道民のウェルビーイング向上

4．基本計画における「目指す姿」を実現するための活動方針と道民のウェルビーイング向上（案）

これまでの美術館活動で蓄積されたノウハウや、道民や関係者からの様々な意見を踏まえ、「目指す姿」の実現に向け、次のような活動方針を策定し、文化財の保存科学や図書館学、博物館教育などに関する専門的職員の配置を視野に入れた体制の強化と取組を推進し、道民のウェルビーイングを向上させる。

近代美術館の活動方針	道民のウェルビーイング向上
施設の魅力向上とユニバーサル化に努め、心地よい空間を創出する。	年齢、性別、言語、障がいの有無などに関わらず誰もが、近代美術館に気軽に訪れ、アートに触れながら豊かな日常を過ごせるようになる。
様々な地域や時代のアートを紹介する展覧会や多彩な企画により、北海道の中核的美術館として道民に優れたアートに触れる機会を提供する。	多様なアートの魅力と価値を享受し、これを通じて創造力や感性を育む。
北海道の美術を中心に日本、さらには世界へ広がる体系的で良質なコレクションを形成するとともに、その適正な管理と必要に応じた修復を進め、道民の貴重な財産として未来に継承する。	この貴重な財産を通じて、学びを深め、人々の営みに思いを寄せ、豊かな未来を創造するための感性や知識を育む。
調査研究を通じて北海道の美術と日本、さらには世界の美術との深い関わりを明らかにし、その魅力と価値を高める。また、コレクションのデジタルデータ化やアートに関する様々な資料の収集と公開を進める。	誰もが、近代美術館のコレクションや資料にアクセスし、その魅力や価値を享受するとともに、楽しみや学びを深めることができるようになる。
外部の多様な主体との連携を重ねながら、来館者それぞれのニーズに寄り添った楽しみや学びの機会を提供する。	美術館やアートを介して他者や社会と繋がるとともに、将来の地域の美術文化の担い手となる。
子どもたちの興味や関心を呼び起こす展示やラーニングプログラムを積極的に実施し、子どもたちが主体的にアートと関わるきっかけを作る。	子どもたちは、美術館での体験を通して芸術の世界の奥深さや、創造することの楽しさや喜びを学びながら成長し、豊かな人生を育む。
子ども連れの人たちが利用しやすい環境の整備や雰囲気の醸成に取り組む。	これまで美術館を利用しづらいと感じていた人たちが、気軽に美術館を訪れ、子どもと大人がともにアートを楽しむことができるようになる。

近代美術館の建物について

資料2

設計者について

太田実（大正12年-平成16年）（1923-2004）
・東京帝国大学（現・東京大学）で建築を学び、丹下健三の設計活動のアシスタントを務める
・北海道大学工学部建築工学科　名誉教授
・北海道大学クラーク会館、苫小牧市博物館・埋蔵文化財調査センター（現・苫小牧市美術博物館）等を設計

建築価値について

昭和53年（1978年）　建築業協会賞（現・ＢＣＳ賞）
昭和54年（1979年）　日本建築学会北海道建築賞
選評：「新鮮な緑をバックに三角形を向かい合わせにしたような真っ白な造型が実に美しかった。」
「設計者の言によれば、これらの必要面積および空間を機能的に整理した結果として台形になったということである。こうした機能的な追求と、それをひとつの建築的“造型”にまでまとめていった手腕は見事である。両側面の対称形の1/2勾配の大屋根は直截で、外壁の白磁タイルの採用によりその意図が決定づけられ、魅力ある高まりを見せている。この白色タイルは室内にホールにと延び、また各所に使われている。」
「展示室は天井と床面の色をおさえて壁面の展示絵画に視点がおかれるようにカラーコンディショニングされ、また天井ルーバーによる照明効果を考慮しているために落ちついて鑑賞できる。」





近代美術館の建物について

資料２

道民の皆様からの御意見

項目	残してほしいところ	希望する機能等
外観・前庭	・今の建物が好きなのであまり変えないでほしい。 ・外観は周辺の緑に馴染む感じが良い。 ・前庭は、今の雰囲気がとても好きなので、綺麗に補修するなどだけで、あまり変化させないでほしい。 ・自然豊かな状況を残してほしい。	・合掌造りの建築が映える外観にしてほしい。 ・「入ってみたい」と思わせる外観にしてほしい。 ・木が多く美術館の外観が見えないので、前庭を綺麗にしてほしい。 ・庭にも歩いて座れるところがほしい。
内部	・ら旋階段は、幼少期からシンボルとして記憶に残っており、残置を希望。 ・２階のロビーは景色が素晴らしいので残してほしい。	・ら旋階段は、エレベーター等に変えた方が良い。 ・２階ロビーの景色は素敵だが、もう少し過ごしやすい環境だと更に良い。 ・床が歩く音などが響くため改善してほしい。
雰囲気等	・厳かで美しく、安心する雰囲気が大好き。 ・緑豊かな都会のオアシス的な雰囲気を継続してほしい。	・もう少し軽やかな内装にしてほしい。 ・開放的で明るい美術館にしてほしい。 ・手入れのしやすい建物や前庭にするのも良い。



近代美術館の建物について

資料２

専門家ヒアリングの結果概要

観点	御助言の概要
現建物の建築史的位置	・北海道の戦後建築のなかで非常にシンボリックなものである。 ・建築から５０年経過した後に、登録有形文化財へ登録される可能性がある。
建築史的価値を支える意匠性の尊重と配慮	・美術館として長く使っていくことが建物に対する最大のリスペクトになる。 ・**意匠に強くこだわるべき部分と、手を加える部分の考え方の整理が必要。** ・歴史的建造物の保存や改修には信念が大切。必要な改修内容とどのような手法により意匠性を尊重したか、考え方を説明できることが大事。 ・**外観を一番大切にする必要がある。** ・設備系はいつでも更新できるものが良い。 ・**設計者の良識に委ね、創造性を発揮してもらうのが望ましい。**
整備にあたり特に重視すべきこと	・原状に縛られることによって、課題が残ってしまったり、新たな課題が生じてしまったりするのは避けるべきである。 ・美術館としての機能を果たすために必要な改修を行うべき。 ・特に動線に配慮した施設にすることが大事。
意匠性に配慮した手法	・建築部分ではなく、施設全体を総合的にデザインするような検討が必要。 ・増築部分などは、素材を変えるなどして後から付加したことが分かるようにする手法もある。 ・増築部分について、無機質な外観にするなど、周囲の景観や意匠に配慮する旨を、設計時の要件として設定することもできる。

委　員　か　ら　の　ご　意　見　等

●リニューアル後の活動について

・ウェルビーイングは基本構想にない、盛り込むのであれば定義が必要。
・「道民のウェルビーイング向上」欄は整理の余地がある。わかりにくい。
・アウトカムは今回まとめて終わりではなく、煮詰めていくことが重要。
・アウトカムをどのように評価するか議論が必要。これからの大きな課題。
・ウェルビーイングは重要だが、道民に馴染みがあるのか。多くの道民が求めているのは、わかりやすさではないか。

●建築意匠性について

・建築価値については当時の評価通りでない面がある（ら旋階段・採光等）。
・どこを残すかより、どのようなビジョンで改修するのか整理が必要。
・どのような手法によって意匠性を尊重したか、コンセプトを明確に。
・意匠性と機能性が求められるが、意匠性の保全が機能にどの程度制約されるのか整理すべき。
・意匠性がﾋﾞｼﾞｮﾝ・ﾐｯｼｮﾝ・ｺﾝｾﾌﾟﾄの妨げとならぬよう、改修とした原点。

エリアに必要な機能

北海道知事公館保存活用検討会資料

エリアの目指す姿【知事公館・近代美術館エリア活用構想（R7.3策定）】

芸術や本道の歴史・文化を身近に体感できる空間	みどり豊かな自然環境が保たれている空間	誰もが心地よく過ごすことができる交流と憩いの空間

エリアに必要な機能

学ぶ・触れる・体験する・表現する・交流する・くつろぐ

施設等	機能を反映させたコンセプト
知事公館	・**建物の歴史的・文化的価値**に触れ、**北海道史の理解**を深められる
近代美術館	・国内外の優れた**芸術や、自然の中で彫刻や建築を鑑賞できる** ・**子供たちをはじめ誰もが心地よく芸術体験できる**
三岸好太郎美術館	・**三岸好太郎の画業と若手アーティストの今を体感できる** ・児童生徒が**芸術を通じた教育活動**ができる ・**地域の芸術文化の発信**
緑地・公邸跡地	・原生林や湧き水（メム）と竪穴住居跡などの歴史を感じられ、北海道史の理解を深められる ・自然を活かしたワークショップなどが実施できる ・**自然散策**やバードウォッチング**などを楽しめる**

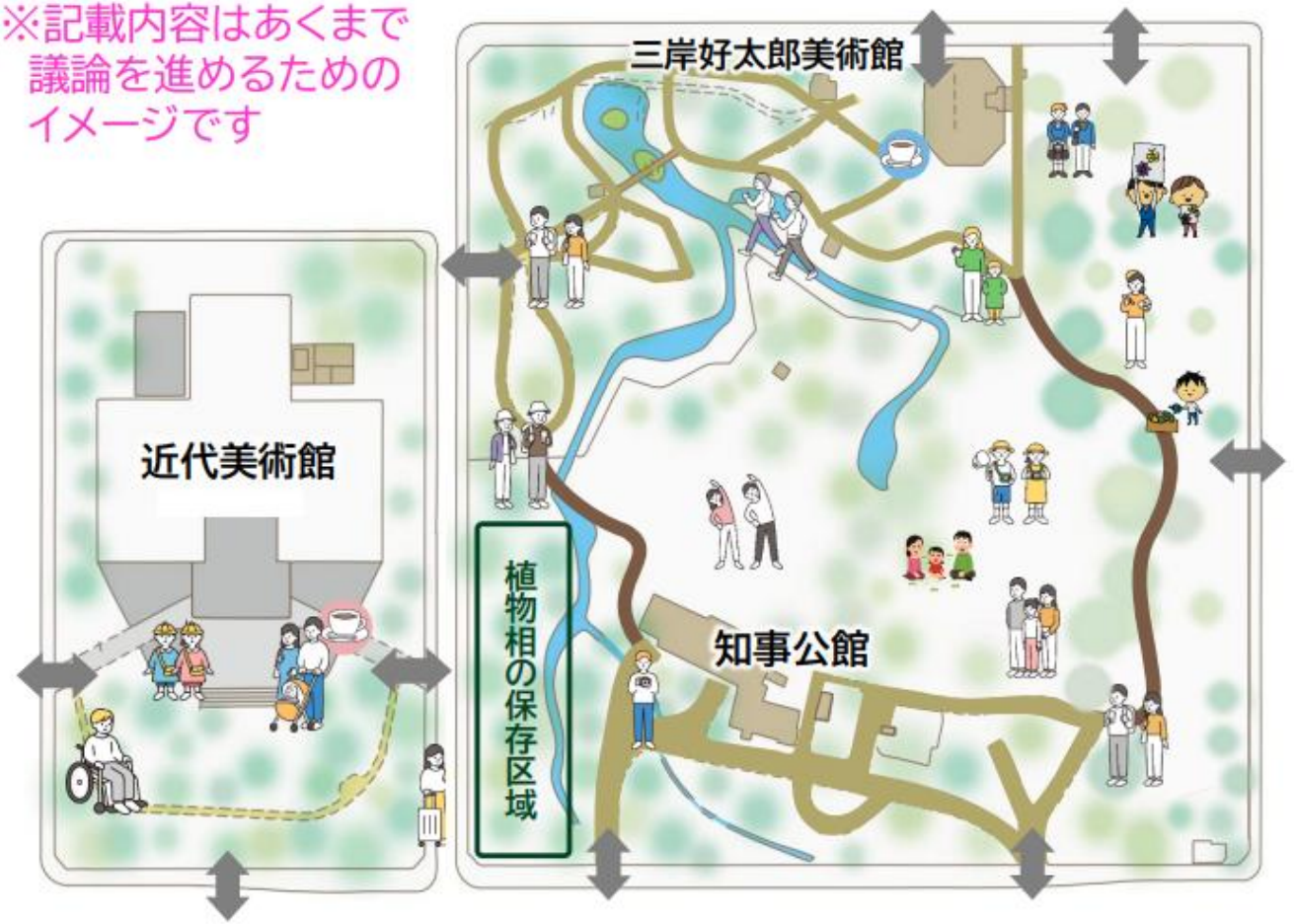
各機能がエリア全体でつながる共通コンセプトの検討が必要

共通コンセプト・エリアイメージ①

北海道知事公館保存活用検討会資料

歴史と芸術と自然を通じ、幅広い世代がともに過ごせる多目的空間
～　親しみをもってもらえるコンセプトイメージ　○○○○　～

※記載内容はあくまで議論を進めるためのイメージです



設備等の充実

①エリアを周遊しやすくする出入口の新設

②緑地と知事公邸間の柵の撤去

③エリアを散策しながら、史跡やアートを楽しめる遊歩道の新設

④散策を楽しめるベンチ等の設置

イベント等の充実

⑤屋外でのワークショップの開催

⑥屋外を活用したアートの展示

⑦学生や子どもと連携したアート企画

既存の周遊路
新設の周遊路
既存の出入口

第19回　○リニューアル後のイメージについて（配付資料：抜粋）

近代美術館のリニューアルイメージ（諸室のイメージ）

ハーモニー

目指すこと

くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができるよう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れる

コレクション

目指すこと

収集方針に基づき貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用

リサーチ

目指すこと

誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるよう取り組む

コラボレーション

目指すこと

アーティスト、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の年齢や個性に応じた楽しみと学びの機会を創出する

ウィズ・キッズ

目指すこと

子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築く

近代美術館のリニューアルイメージ（諸室のイメージ）

ハーモニー

目指すこと

くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、**多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができる**よう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れる

実現したいこと

＜展示室に関すること＞
○北海道の中核的美術館として、国内外の名品を紹介する展覧会
○コレクションを活用した様々な企画を展開
○視覚に頼らない体験などを提供
○近美のコレクションの柱であるガラス工芸などの常設展示

＜コレクションに気軽に親しめる空間＞
○ガラス工芸などのコレクションを無料で公開
○ガラスの展示品が綺麗、展示室以外でも作品があるといい
○気軽にアートに触れられる空間として整備することで、にぎわいを創出
○色々な視点の展示、音で楽しめたり、触れる作品の展示もあるといい
○無料で自由に観覧できるスペース

＜来館者エリア＞
○魅力的な空間デザイン
○カフェ・レストラン
　・コラボメニューなどの提供
　・展示替えなどの休館期間も営業する（回遊性に寄与）
○展示以外でも日常的に来られる美術館
○家族連れで来場した時も寛げる空間がほしい

他県等の事例


近美特別展「星の瞬間」


近美コレクション
「岩田藤七の軌跡」


富山市ガラス美術館
グラス・アート・パサージュ


長野県立美術館　アートラボ


富山県美術館
ポスタータッチパネル


静岡県立美術館
名品コーナー

近代美術館のリニューアルイメージ（諸室のイメージ）

ハーモニー

実現のための機能例

＜展示室の機能向上＞
○展示ケースや照明、空調、可動パネルなどの展示設備の全面的な更新
○耐力壁が四方および内部に配されているため、抜本的な構造変更は困難

＜来館者エリア＞
○バリアフリー化の推進
・エレベーターの設置　・床のフラット化　・点字ブロックの設置
・多目的トイレの設置など
○ユニバーサルデザインに基づく館内表示
○トイレの抜本的改善や救護室の新設
○インフォメーション機能の整備
○カフェを利用しやすいところに移設
○ミュージアムショップの拡充

＜管理エリア＞
○10ｔトラックが駐車可能な搬入口の整備
○展示什器や展示用具等を保管するための十分なスペースの確保

＜屋外エリア＞
○前庭の再整備を中心とする景観デザインに取り組む。知事公館・近代美術館エリア全体における位置付けを考慮しつつ、多くの方に親しんでもらえる空間を目指す
○外構部分の整備に伴いやむを得ず樹木の伐採を行う場合には回復措置を実施
○ネイチャーポジティブの考え方に基づく在来種の植樹を検討
○身体障がい車用駐車場の再整備

他県等の事例


横浜美術館　じゆうエリア


富山県美術館
ミュージアムショップ


ポーラ美術館カフェ


京都市京セラ美術館カフェ

施設整備の全体イメージ

整備イメージ

- ビジョン・ミッション・コンセプトからなる近代美術館の「目指す姿」、施設整備の基本方針をもとに、敷地建物の所与の条件・制約も踏まえながら、整備イメージを次のとおり考える。

（1）施設全体について

●建築物の意匠に配慮しながら、諸室の転用や有効活用、増築などを含むリノベーションにより、建物のバリューアップを目指す。
●リノベーションにあたっては、地域材を利用した内装や什器等を可能な範囲で取り入れる。
●多くの人が親しみやすく何度も訪れたいと思うような魅力ある空間づくりに取り組む。

（2）既存建物について

●建築当初の構造を活かしながら、来館者エリア、管理エリアとも諸室の配置や動線、ゾーニングを見直し、当初の設計に起因する課題の解決に努める。

（3）増改築について

●美術館活動の質や来館者の利便性向上のため、現在の建物の正面出入口（南側）付近に増築を行う。
来館者が利用する「展示」「教育普及」「サービス」に関わる諸室の一部を配置することを検討する。
●「収集保管」「調査研究」に関わる諸室は、機能性向上を最優先に整備する。
敷地の効率的な活用の観点等から、既存の第２収蔵庫を解体撤去したうえで、将来的な所蔵作品の増加に備え、新たな収蔵庫を整備する。

（4）外構部分について

●景観と安全管理の観点から外構・前庭の植栽等の在り方を検討する。
●誰もが利用しやすい施設を目指し、外構部分の動線やゾーニング、身体障がい者用駐車場、団体用のバス駐車場の再整備に取り組む。

リニューアルの整備イメージ

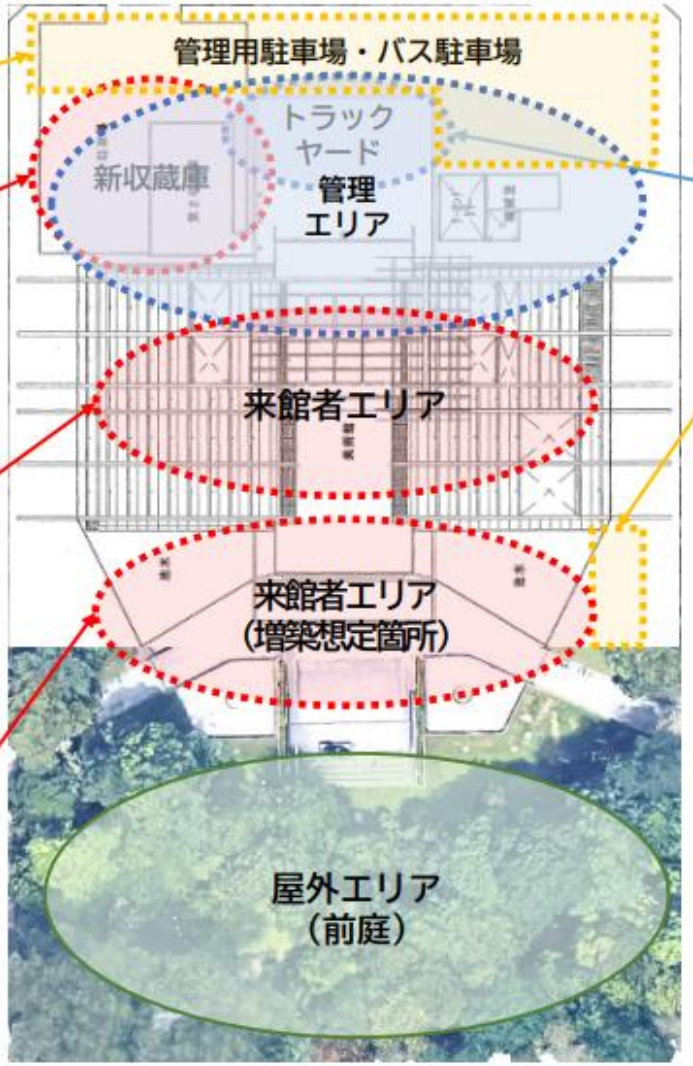
整備の全体イメージ

条例に基づく管理用駐車場とバス駐車場の整備

第2収蔵庫の解体
新収蔵庫棟の増築

既存の建物
メインとなる展示室を配置
滞在に寄与するリサーチ、サービスに関わる諸室を配置

前面（南側）に増築
展示、教育普及、サービスに関わる諸室を配置
展示替え期間中の公開や、無料での公開を検討



トラックヤードの整備

身障者用駐車スペースの整備
（４～５台程度）

建物正面に増築した美術館（例）


大阪市立美術館


大阪市立東洋陶磁美術館


京都市京セラ美術館


神奈川県立近代美術館
鎌倉別館

委　員　か　ら　の　ご　意　見　等

●近代美術館・知事公館エリア全体の一体的な活用について

・知事公邸等を解体した後、もう少し綺麗に明るくするデザインが必要。
・設置者と委員の議論も大事だが、現場の人の意向を正しくくみ取ること。
・別々に検討会議を進めていって本当に有意義なものが生まれるのか。
・（エリア全体のイベント等）総務部と縦割りではなく、全体を統括する大きな組織で管理するのが良いのではないか。
・近代美術館と知事公館の議論を擦り合わせた時に、近美のプランが変更や修正のないように進めるべき。

●リニューアル後のイメージについて

・抜本的な構造変更が困難というのであれば、それを踏まえ、どういう可能性があるのか探るべき。
・コラボレーションは大変重要だが、しっかり考えないと無駄になる（施設設備）。
・障がい者団体、高齢者等団体のヒアリングをハードに反映する前に実施すべき。
・スケジュールが分からない、スケジュール表を作成して共有すべき。
・様々な諸条件を考えて、切り捨てるものは切り捨てる段階、他県の事例を挙げる段階ではない。いつまでに基本計画を作成するのか。

近代美術館リニューアル基本計画等の策定

会　期	項　目	質問概要
令和８年第２回定例会一般質問（R8.6.19）	○知事公館・近代美術館エリアの活用について	○佐々木大介議員（自民） ～略～　本エリアには、優れた芸術に触れることができる近代美術館や三岸好太郎美術館、重要な会議に活用されてきた知事公館、豊かな自然環境が残された緑地など特徴ある施設が存在しており、その活用に向けては幅広いテーマについて考え方を整理していく必要があります。　～略～ **エリアの全体像を踏まえた知事公館・近代美術館の整備・活用について、いつまでに、どのように取り組んでいくのか**、知事及び教育長に伺います。

知　事（知事公館保存活用計画）	教育長（リニューアル基本計画）
～略～、エリア全体に共通する基本的な考えを検討する必要があります。～略～、**知事公館や近代美術館が果たしてきた役割や機能を踏まえ、整備や活用の方向性について取りまとめていく考え**であり、多くの方々に親しまれ、誇りに感じていただける場所となるよう、道民のご意見を伺いながら、**今年度中に計画案を示してまいります。**	～略～、エリア全体が一体として魅力ある空間となるよう基本的な考え方を知事部局と連携し、検討するとともに、有識者会議などのご意見を伺いながら、誰もが、いつでも、何度でも、訪れたくなる美術館となるよう、**リニューアル後の施設内容や活用の方向性などについて取りまとめ、今年度中に計画案を示してまいります。**